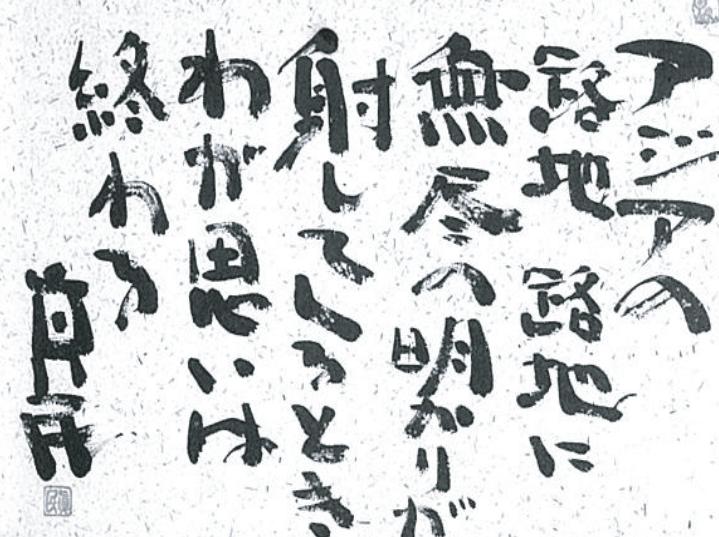


# 笑う門には福来る。

松山市勝山町1-18-10  
(株)日本交通社  
TEL(089)946-3911  
発行人: 中村剛志



アジアの路地

四十五歳の時に作られた第五詩集『アジアの路地』の序詞その一として書かれた詩である。

「詩記」の中で真民は、「アジアのあかりはどこから射すか、それは世界の屋根ヒマラヤの峯から射す、アジアという言葉は世界をつつむ言葉だ。貧しいアジアの民よ、手を握りあおう、アソカの花は、アジアの花だ」と書いている。

坂村真民記念館(砥部町)

## 神の留守

俳句の季語に「神の留守」があります。神無月(旧暦十月)のことです。

留守のまに 荒れたる神の 落葉哉(芭蕉)

松尾芭蕉が「奥の細道」の大旅行を終えた後、二年七ヶ月ぶりに江戸に帰ってきた時に詠んだ句です。

「ちょうど神無月の神が出雲から帰ってきた時のように、永い間留守にしていた江戸は、自分の住まいも落葉が深く降り積もつて荒れ果てているなあ」という意味です。ひつそりとした、もの寂しさが伝わってくる句です。

なら山の 神の御留主に 鹿の恋(一茶)

こちらは、もの静かで奥深い趣を求めた芭蕉とは対照的な俳人・小林一茶の句です。「神無月の奈良山では、神が留守の間に神の使いの鹿たちが恋をしているなあ」という意味です。同じ「神の留守(留主)」を詠みながら、一茶の句は、求愛の鳴き声をあげる鹿に想いを寄せて、生への執着を感じられます。

季語に表われた四季の移ろいは、日本人の情緒を豊かに育んできたのです。

●先人の感性に学びましょう

「職場の教養」より

## 明朗・愛和・喜勵

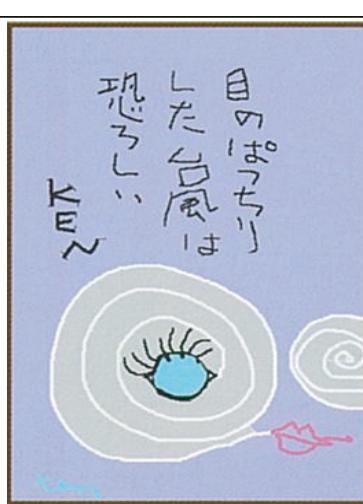
暮れ泥む伊予の小富士を抱くこと

五九五便左旋回



少年はかなり太めの法被着て  
おずおずと聞くおみこしひち?

八木健さんの川柳アート



結女さんの松山ミクロン

やはらかき  
牛の腹なり

秋の雲

うつぶせの  
背中を過ぎる

秋の雲

## 宇和ちゃんの啖呵!!短歌

道しるべ

素直な人は何でも吸収する

子供は、素直に真似て学んでいく。

何事も受け入れて実行すれば、自分の身となり、力となる。